

# 外国出張報告



感染症研究部 上席研究官 両角 徹雄

目的・用務：ベトナム国立獣医学研究所強化計画・短期専門家（獣医細菌学）

出張期間：平成15年2月10日～平成15年3月27日

出張場所：国立獣医学研究所（National Institute of Veterinary Research: NIVR, ハノイ市）

## [用務の内容]

NIVR はベトナムにおける獣医学研究の中心的役割を担う機関として1969年に設立された。本研究所は現在、6つの研究部門（ウイルス学、細菌学、寄生虫学、生化・免疫・病理学、衛生学、研究開発・広報）と幾つかの事務室からなる管理運営部門で構成されており、家畜の疾病研究、診断技術の開発、ワクチン製造とその野外応用、学位審査と授与、技術トレーニング及び広報活動等を業務としている。

ベトナム国立獣医学研究所強化計画（SNIVR プロジェクト）は、NIVRでの家畜感染症診断法の改善を主要目標として、2000年3月から5年計画で進められており、チーフアドバイザー、業務調整員、ウイルス学、細菌学の長期専門家のほか、毎年数名の短期専門家が本プロジェクトに派遣されている。今回、豚呼吸器病（SRD）の診断技術の向上のためにNIVR細菌部門においてSRDについての概説及び研究情報の交換を行うとともに、SRDの重要な病原体であるヘモフィルス・パスツレラ・アクチノバシラス属菌を中心に、菌株の同定（鑑別検査、微量法による生化学的性状検査、簡易キットによる同定）、型別法（各種血清反応：寒天ゲル拡散法、間接赤血球凝集反応、共凝集反応、マイクロプレート凝集反応等； Multiplex PCRによる型別）、菌株保存法（分散媒：Mist desiccans）、抗血清作製法等の技術指導を行った。また、ハノイNIVRでのパスツレラ症診断ワークショップ（3月3日～3月7日開催）では「*Pasteurella multocida* and pasteurellosis」の演題で講演するとともに、*P. multocida*感染試験牛豚鶏材料を用いて、ハノイ大学、国立獣医診断センター（NVDC）及び地域家畜衛生センター（RAHC）等の獣医師を対象として、診断技術向上のためのトレーニングを行った（写真）。

## [所感]

細菌部門では常時10名程度が細菌病の研究業務及び製造業務に従事していて、仕事の協力と分担関係は

よく組織化されていた。このうち5名がカウンターパート（C/P）となった。技術指導用にプリントを作成し、またホワイトボードを利用して、実験計画や理論を説明した。C/P間の英語レベル及び理解の程度にかなり差がみられたことから、英語での講義の後、C/Pの一人を選んでベトナム語で再度説明してもらいC/P間の相互討論を待つて、最後に質疑応答を行った。職員の多くは最新の診断技術情報に高い関心を示し、また実用的な診断技術の習得には特に熱心であった。

着任してから最初の2週間は、必要な実験器具や蒸留水の確保、基本的試薬の調達等に奔走することとなった。入手不可能な器具の一部は代用器具をC/Pと一緒に考案し連帯感が強まった。第3～4週目にはワークショップの準備やその実施に専念した。最後の2週間は、技術指導の継続とともに稼働していない機器の調整等を行った。この間、Vietnam-French（VF）病院で重症急性呼吸器症候群（SARS）が発生した。このVF病院はNIVRから数百メートルの至近に位置していたが、政府の疫学機動隊が拡大防止に全力を注いでいることから（Vietnam News: 3月18日付）、一安心した。ベトナム政府の公式見解発表後、ハノイ街中ではマスクをしている人が急増した。今回、SNIVRプロジェクト及びNIVR職員全員のご協力により、任務を無事終了することができたことを心から感謝する。



写真：技術トレーニングコース（細菌検査：実演）